# 米沢産地の市場調査&
# 意見交換会の概要要旨

（米沢織物歴史資料館）

日本繊維輸入組合

絹委員会

２０１０年１１月１９日（金）　於：米沢市

# 米沢産地の市場調査＆意見交換会の概要

日本繊維輸入組合

一、日　時：２０１０年１１月１９日（金）１２：１５～１８：１５

二、場　所：米沢市

三、訪問先：

見　学：米沢織物歴史資料館　　１２：１５～１２：５０

製　織：嵐田絹織（株）　　１３：００～１３：５０

米沢市城西４―２―２２　　０２３８－２３－０８２４

・婦人服地の織物業

縫　製：（株）パルコモード　　１４：００～１４：５０

米沢市城西４－４－２１　　０２３８－２３－８２０１

・大手アパレル向けのボトム中心の縫製業

後加工：（株）キハラ　　１５：００～１５：５０

米沢市門東１－２－８０　　０２３８－２２－００１１

・精練染色、後加工業

四、意見交換会の要旨：

１．日　時：２０１０年１１月１９日（金）１６：００～１８：１５

２．場　所：米沢繊維協同組合連合会会館　会議室

３．出席者：別添

４．懇談要旨：

協同組合連合会の寺島広幅部部長から当組合と関係者に対しての歓迎の挨拶と米沢産地の現在置かれている現状についての説明があり、続いて、新美絹委員会委員長から米沢産地訪問の趣旨と当組合の概要および輸入状況の説明を行った。

その後、欧米の繊維製品の市場動向については、韓国のウォン安の状況下で特にＥＵ向けに積極的輸出を振興している事例を交えた報告と、また、国内景気の低迷及び円高に対する合繊メーカー・加工場の対応、中国の内販、縫製工場の現況について報告があった。潘委員からは、海外原料事情について中国、ブラジル、ベトナムの直近の現状について報告があった。

その後、需要の掘り起こしにこだわることなく、双方、自由討論の形で意見交換が行われた。

五、新美委員長の説明：

・当組合は、経済産業省の輸出入取引法に基づく認可団体で、１９９９年に日本生糸輸入組合と合併を行い今日に至っている。シルク関連については、１９７４年に生糸の一元化輸入以降、唯一輸入が制限された品目で、２００４年末に繊維貿易協定の廃止によって自由化された。全体の扱っている品目は、糸類、織物類、衣類、その他二次製品と繊維製品全体で、シルク関連は、繭、生糸、絹撚糸、絹紡・紬糸、絹織物である。

・日本の２０１０年 1～９月の繊維製品の輸入状況は、前年比３．３％減の２兆１０００億円で、そのうち中国が７６．４％を占め、続いて、ベトナムが４．７％、イタリアが２．４％で、まさに中国の一極集中となっている。全体の構成では、糸類が３．４％、織物類が５．３％、衣類が７８．３％、その他二次製品１３．１％で、製品類が９１．３％を占めている。

・また、糸、織物の粗原料は、８．７％ですが、シルク関連の全てを併せても、全体の０．４％の９３億円しか占めていない。ちなみに世界の繊維の需要量は、６，５００トンですが、このうち生糸は０．２％しか占めていない。繭の生産量だけみると中国が７８％を占めている。

・このような状況下、当委員会は、何とかシルク製品の需要を掘り起こす方策について検討を進めてきた。昨年には、経済産業省の協力の下に中小企業基盤整備機構の委託による「シルク価値創造に関する調査」の事業を取りまとめた。今回、この事業のフォローアップも兼ね、政府の純国産シルク製品の需要振興策の他に何をなすべきかを考え、商工一体となったシルク製品の需要の掘り起こしをすべきとして、本日、米沢産地を訪問することになった。

六、米沢産地の紹介：

①米沢産地の歴史

現在、日本国内の繊維産地の中で、最北の産地である 当米沢産地は、皆様ご存じの通り、米沢藩の９代藩主であった上杉治憲（鷹山公）が疲弊した藩財政を立て直し、民間の利殖をはかるために養蚕を奨励し、武家の内職に機織をさせたのが、その発祥といわれる。 新潟県小千谷からその技術者を招いたのが時に安永 （西歴１７７７年）である。

当時長井地方にあった養蚕業を基礎とし絹織物に移行し、出羽の米沢織物として絹織物の名声をあげるが、 麻織物から絹織物産地としての形態を成すまでにほぼ２０年の歳月を要したと伝えられる。寛政４年の頃である。産地の形成は現在の米沢織物を母体としてその評価は大きいが、藩政時に於けるその性格は、封建経済を基礎とした保護産業であり、その起因するところも封建経済に於ける宣国策としても見ることができる。

したがって発祥の経緯は、その背景と経済的要件を見ながら正当な評価が下されるべきであろうが、以来、米沢は絹織物の産地として全国に名声を馳せることとなり、明治以後も市の基幹産業として雇用機会の提供、地域コミュニティの担い手等、地域中小企業全体、ひいては地域社会全体の中核としての機能を有し、地域発展の基盤ともなり現在に至っている。

米沢織物産地の特徴は、先染絹織物の製造販売を行ってきた歴史的背景があり、産地内において、その関連業種である撚糸・染色・織物仕上・意匠・紋彫部門を包含しているとともに、流通段階である原糸商、織物買継商とも密接な連携を保ちながら総合的な織物産地 を形成してきた点にある。

また、昭和初期にレーヨン発祥の地として、現在のテイジン(株)の前身が米沢に創設され、レーヨンなど化学繊維の生産技術を全国に先がけて取り組むなど、合化繊織物の土台形成もなされてきた経緯もある。

戦後の洋装化に伴い、昭和３０年頃より合化繊糸を使用した先染婦人服地が隆盛となり、米沢産地は呉服部門と服地部門の両面産地として、その時々の流行の変化に伴い呉服と服地の生産シフトを行える器用な産地 としての評価を得た。

この様に、米沢の織物業は、伝統的な絹織物から発展し、現在は、天然繊維と化学繊維による服地、呉服の総合的なテキスタイル産地を形成している。

②米沢繊維協同組合連合会

１８９２年（明治２５年）に米沢絹織物業組合として創設され、１９９４年（平成８年）に米沢繊維協同組合連合会と名称変更して今日に至っている。

１．会員：（２０１０年４月１日現在）

| 組 合 名 | 組合員数 | 従業員数 |
|---|---|---|
| 米沢織物工業組合 | ４７ | ３５０ |
| 米沢織物商業協同組合 | ２３ | １０３ |
| 山形縫製工業協同組合 | １０ | ５８６ |
| 米沢繊維関連協議会<br>染色・整理・意匠部会 | １５ | １４４ |
| 計 | ９５ | １，１８３ |

２．生産高（２００９年）

５２．６億円（婦人服地関連６６％、呉服関連３１％、その他３％）

３．織機台数《２０１０年３月３１日現在》

| 幅　別 | インチ | 台　数 |
|---|---|---|
| 小　幅 | ２１～　２６ | ５２０ |
| 並　幅 | ２７～　６０ | ３９８ |
| 広　幅 | ６１～１００ | ５６ |
| 計 | | ９７４ |

４．販売・仕向地（２００９年）

| 仕向地 | 全製品 | 呉服 | 服地 |
|---|---|---|---|
| 東　京 | ４１．９％ | ５４．７％ | ４５．３％ |
| 大　阪 | ７．６％ | １８．５％ | ８１．５％ |
| 京　都 | ３４．３％ | ６４．３％ | ３５．７％ |
| 名古屋 | ８．２％ | ６０．１％ | ３９．８％ |
| その他 | ９．０％ | ９８．７％ | １．３％ |

七、参加者の論評：

新美一夫《(株) ＧＳＩクレオス》

今回、日本繊維輸入組合絹委員会のメンバーとして、シルク需要の掘り起こしに関しては、国内の主な産地の方との協働が重要であると考え、主な産地である米沢産地へ訪問し、関連業者の方との意見交換を行いました。

各工場及び組合連合会の方との意見交換会で、一番感じたのは高度な技術を持っているにもかかわらず、

1．国内市況低迷が続き、消費者が低価格商品に慣れてしまっている。
2．円高基調が続き、海外輸出が困難な状況である。
3．商品開発をしても、国内外アパレルの安価な価格志向により、中国を中心に生地から縫製までの海外一貫生産が増えている。
4．シルク、コットン等の天然素材の価格高騰が激しいが、市場での価格転嫁は難しい。一方、糸の品質は劣化しており、品質維持が出来ない状態になってきている。
5．今後の原材料及びアパレルの状況が非常に不透明である。

上記の状況により、産地としては将来の不安感が増えているということです。
シルクの将来性はあるのかと言ったような率直な意見も有り、その意見に対して希望が持てるような具体的な施策を出せなかったことは、残念に思っています。

絹委員会としては、シルク産地の不安感を少しでも減らすべく、シルク需要の掘り起こしとなるようなアイデアを継続して出していく所存であります。

鈴木　誠《西田通商（株）》

「機屋」

① 嵐田絹織（株）

この機屋は西田通商としては、前から商売があり先染め無地の商品が多いため糸の良い悪いが直接織物に影響する。柄でごまかすことができないので、よって、糸の選別がもっとも重要になってくる。絹紡糸の今後の生産背景によっては、機屋生命にも影響がでてくる可能性がある。だいたい５０％の稼働率であり、このままでは未来が見えない。意見交換会にも出席いただいたが絹の将来を非常に気にしていた。繊維輸入組合としては、より良い糸が常に輸入できるような体制を作ることも大事な仕事である。

「縫製業」

② （株）パルコモード

海外の縫製工場はよく見学するが、国内の縫製工場はあまり見たことがなかった。まず感じたことは、非常によく管理されていることでした。限られたスペースにまったく無駄のないミシンなどの配置、また、立ちミシンの工場を見たのも始めてでしたので、びっくりしました。慣れれば座るより楽というのも納得ができる。

ボトム専門というのも長く続けてこられた理由であろう。取引先も日本でも超一流なアパレルばかりだし、日本の縫製工場もりっぱなものである。しかし、上代１万円以下のものはないと言っていたが、価格だけを追いかけると海外に行かざるを得ない状況の日本のアパレル業界にも問題がある。

「仕上げ加工」

③　（株）キハラ

米沢産地の先染めの仕上げは、ほとんどこの工場で扱っている。歴史を感じさせる建物であるが、産地の現状を物語るかのように活気は感じられませんでした。昨年よりは生産が増えているというが、全盛期まで戻ることはないであろう。

④ 意見交換会（懇談会）

やはり今後の絹はどうなるのか？という意見が多かったのと、糸の背景を気にしている機屋さんが多かった。他の繊維などとの複合素材が得意な産地だけに、生き残っていけるだろうが、こと絹に関していえば今やなくてもいいのか？

弊社は、絹を中心に１００年以上経ちます。今後も絹がこの世からなくならない限り扱っていきますが、米沢、福井、丹後、福島など各産地が元気を取り戻せるような環境になってほしいものです。そのために、絹委員会として何をするべきかをもう一度考え直さなければいけない必要性を感じました。

渡邉　大《同興商事（株）》

今回、産地訪問に参加させて頂いた目的として、今まで中国の織布工場、縫製工場を中心に生産を行ってきていますが、糸値高騰、中国での物価、人件費もかなりの率で上昇しているなか、我々シルクを専門に扱う会社としては、従来の中国定番品以外のこだわりのあるものを商品化し売れるものにしていかなければならない。その場合のチャイナ＋１はやはり日本でしか考えられず、各産地の情況を勉強したいと思っていたところです。

米沢繊維組合連合会とのディスカッションにおいては、リーマンショック以降、後加工の㈱キハラさんの話によると昨年でリーマン以前の５０％ダウン、今年は、昨年より少し回復したといっても３０％ダウンという事からも米沢産地全体的に影響を受けているようであった。

シルク製品の内外への需要掘り起こしをテーマにディスカッションを行ったが、㈱安部吉さんなどは糸値が生糸で安い時の２，０００円アップ、絹紡糸で安い時の１，０００円アップしていて、非常に難しいポリエステルやキュプラとの複合などで対応している。

全体にこだわりのある物作りを米沢では行ってきているが、今の市場では価値観を解かってもらえず、高い糸値でのシルク素材は、デフレ市場でのアパレル上代に転嫁することができない。

リーマンショックの影響かヨーロッパ向けのスーパーブランドへの売上げも激減しており、糸口がつかめないようである。

中国生産のシルク素材は定番品においては、やはり勝てないが複合素材などの開発、後加工を含め中国が苦手とする部分はまだまだあるので、日本のもの作りを見直すには糸値が高い現在は良いチャンスと感じている。

潘林龍《中和（株)》

今度、輸入組合、経済産業省繊維課、日絹連の三方より、厳しい国内消費の中にどういうふうに日本シルク事業を振興できるか？という目的で、伝統的な洋装産地―東北方面の米沢を視察訪問と同業者の交流を実現できたことについて、まず、米沢地区の共同組合連合会へお礼を申しあげます。

今回は、嵐田絹織（株)、(株）パルコモード、(株）キハラを見学させて頂き、一番感じたのは管理と品質の安心さです。特にロットが小さいのは魅力的です。産地の皆さんと交流の中に、原料の供給は一番の話題でしたが、コストと納期については、内外とも共通点があると同感致しました。

ほぼ二時間掛った交流会については、皆さまがそれぞれの角度から、シルクの洋装に関して、誠意をもって、情報を交信して、非常に有意義な交流会でした。確かに、シルク産業の現状では、繭、生糸、撚糸、絹織物、染織、縫製、企画、販売において、国産と輸入がさまざまな形で進行しており、どちらがいいのか？どちらが伸びるのか？その情報と認識について、今まで、お互いに集約しなかったわけです。

私が今回は初の交流会でしたが、もっと時間と内容を充実にして、そのテーマと将来の課題を深く議論すべきだと思います。その理由は

1、　シルクの消費者が変わってきていること。

2、　国内シルク消費量を拡大するには輸入業者の力を借りないと国内機屋さんの現状では無理であること。

3、　逆に良いもの、安心、安全に小ロットで消費を拡大するには国内の生産基盤と力を加えないと商社さんの仕事も増えないと認識していること。

4、　昔と違って、お互いに力を合わせて、生産と貿易、企画と販売、より緊密に連携して日本の特色を発揮して、必ず世界で一流のシルク商品を国産として実現できるのは、今の情報化時代であること。

従って、提案としては、これから貿易の輸入者、生産者、小売の企画などの業者が参加して、二年に３－４回のシルク消費振興交流会を定期的に行うことを希望したいです。

芝村　修《日本絹人繊織物工業組合連合会》

今回、日本繊維輸入組合(絹委員会)から、国内絹織物産地訪問のお誘いを受けましたが、歴史的にみれば、生糸・絹撚糸の原料の輸入規制に始まり、絹織物の輸入攻勢により和装産地を中心に打撃を受けた時期もあり、日本繊維輸入組合が日絹傘下の絹織物産地を訪問することは私の記憶では初めてではないかと思います。

去る１０月に開催された青山テピアでの展示会を見学した際、全国的にはかつての絹織物産地において先染洋装用生地からシルク素材が少なくなっている中、米沢産地はシルク複合素材の生地が多く見られ、未だに伝統的な物づくりに対するこだわりに感激を覚えました。今回の日本繊維輸入組合が提案した「シルク製品の需要掘り起こし」に米沢産地が受け入れたこともこれで頷けた気がします。

米沢産地は伝統的絹織物から発展し、現在は服地(７割弱)から呉服(２割強)まで、使用原糸も天然繊維(シルク)から合成繊維までの複合素材を得意とする産地で、全国的にも他産地ではできない手の込んだ(高密度織物などの)高級品を生産しています。また、撚糸、染色、整理加工等関連企業が産地内に存在し、糸から製品に至るまで一貫生産できる数少ない総合織物産地と認識しております。

今回の情報交換会は、新美委員長が冒頭、世界の国際為替情勢に触れ、円高が各国の為替相場にどのように影響し、各国市場の優劣に影響していることを報告されましたが、まさに、従来のようにいいものを作っているだけでは売れなくなっていることを再認識しました。

米沢産地の各企業からは厳しい現状報告がなされましたが、一方で米沢織が海外で高い評価を受けるためにはどうしたらよいか、ヒントになる情報を産地は商社に求めています。素晴らしい技術を内外に知らしめ、価格面でも折り合いのつくことの出来るための手段の一つにブランド化を図ることがあり、その想いはどの産地も同じですが、流通構造の変革期の中、国内アパレルは物作りに対するこだわりが薄れ、コスト競争に翻弄されている状況では、我が国のものづくりの現場(産地)は早晩崩壊すること必至と思います。

我が国の織物業者の多くは、物づくりに自信を持っていますが、自家製品をアピールし自ら売り込むことは、企業規模等から難しい面があります。いまこそ、各業種が抱えている弱点を洗い出し、業種を超えて補完し合うための企業間連携や産地間連携が必要と思います。

今回の情報交換会は、当初の検討課題である「シルク製品の需要掘り起こし」の具体的提案までは至りませんでした。今後の米沢産地シルク製品の方向性については、委員長から、和装の世界は今後も減産を余儀なくされる難しい面もありますが、洋装分野においては米沢産地が得意とするダッチサタンのように高密度の高級シルク１００％の物づくり路線の他に、シルク、レーヨン他複合素材で糸の段階から付加価値をつけ、どこにでもマネのできない個性ある商品開発が必要ではないかとの意見(ヒント)が出されました。

経産省は繊維ビジョンで、リーマンショック以降の国内需要の落ち込みに対応すべく、更なる機業の自立化を促し、海外に活路を見いだすことを提言しています。

しかし、繊維産業に対する国からの財政支援が途切れた現在、業種間を超えた民間レベルでの話し合いが必要で、その一歩として、今回のように売る側(商社)と作る側(産地)との間で忌憚ない意見交換ができたことは、有意義であったと感じた次第です。

永山　泰規《経済産業省　製造産業局　繊維課》

【嵐田絹織（株)】

洋装と和装を扱う製織工場であり、112 ㎝幅に 15,000 本～18,000 千本の経糸を打ち込む高密度織物が強みである。12 台あったレピア織機の稼働率は 50%程度。高密度織物を扱っているせいか織機の回転数はゆっくり目という印象だった。

【(株) パルコモード】

レディースのボトムスを中心に扱う縫製工場。工程の所用時間を秒単位でラインを管理するパルコローテーションシステムや特殊縫製を行うスミレラインなど独自の製造管理システムにより縫製を行っている。特にパルコローテーションシステムにより、各工程を秒単位で管理し、自動的に製品が移動していく様子は、従業員の方々の緊張感が伝わってくるものだった。

【(株) キハラ】

絹・合繊織物の加工場で米沢産地には、キハラ以外にも東北精錬など２社ある。現在ではシルクより、合繊の取り扱いが増えている。あまり設備が稼働していないような印象を持った。後加工が繊維の付加価値を最も高める部分であるので、大手だけでなく中小の加工場にがんばってもらいたいと思った。

【産地企業との意見交換会】

今回の意見交換会で話題の多くは原料の問題であった。現在、生糸の価格は値上がりを続けており、産地企業でも苦しんでいる様子が伝わってきた。絹紡糸の品質低下の話は初めて聞いたものであり、これからは絹紡糸の品質も注目していきたいと感じた。

今後の国内市場は、人口減に伴い縮小することが予測されており、現在のように円高傾向は続いているが、繊維産業の生き残りのためには、海外市場への進出は必要不可欠である。そのことを踏まえて産地の企業にはがんばってもらいたいと思う。

【総評】

今回の出張で、縫製を初めて見たが、他の業種に比べて所要時間を管理し生産性を高めているように感じた。改めて縫製業が、海外の縫製業との熾烈な価格競争で戦っていることを実感した。それに比べると他業種も生産性向上への更なる工夫が必要と感じた。

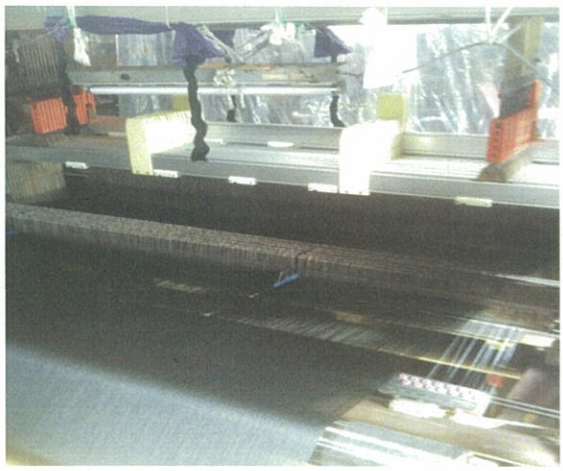
神保、槇山（事務局）

昨年度に中小企業基盤整備機構の委託による「シルクの価値創造に関する調査事業」のフォローアップとして、国内産地との協働を図る必要性があるとの絹委員会での検討を受けて実施することになった。米沢については、米沢繊維共同組合連合会の佐藤事務長の協力と受け入れによって、製織、縫製、後加工等の工場視察と関係者との意見交換を行うことが出来ました。

各参加者の論評にあるように世界一の技術・意匠力をもっておりながら、内外のユーザーに発信、供給、継続的な新たな創作が生み出せないジレンマがあるようで、これを打開するには、シルクに愛着を持ち、ブランド化した商品をユーザーに掛け合うコンバーティング的なコーディネーターの存在が求められるのではないでしょうか。

通信販売、テレビショッピング、またパソコン、携帯サイトのショッピングにおいては、シルク素材やシルクと他の複合糸による衣類、寝具、インテリア、ライフスタイル全般のシルク製品が多く提供されていますので、発想の転換を図りシルク１００％にこだわることなく、消費者の目線でのものつくりに取り組み、新素材、新製品の開発が重要になってくるのだと思います。

さらに需要の掘り起こしは、シルクの潜在的需要がある限り、シルクに関わる人々が知恵をだし合い、協働することが今一番必要なのではないでしょうか。



嵐田絹織（株）

（株）キハラ

（株）パルコモード

山本常務取締役の説明

意見交換会（新美委員長、寺島部長）

八、貴産地への訪問便宜供与のお願い：

2010/10/27

米沢織物共同組合連合会
事務長　佐藤　伸二 様

日本繊維輸入組合
絹委員会委員長　新美　一夫

## 貴産地への訪問便宜供与のお願い

拝啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
当組合の事業運営につきましては、日ごろ、ご協力賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、当繊維輸入組合の絹委員会が、長年取り組んできましたシルク需要の掘り起こしは、「一般消費者に対するシルク製品需要増進の方策」【２００９年３月発刊】また、中小企業基盤整備機構より受託した「シルクの価値創造に関する調査事業」の取りまとめ【２０１０年２月報告】を行いました。

このシルク需要の掘り起こしについては、国内の主な産地との協働を図っていくことが、重要になってくるので、そこで、貴産地の方々との忌憚のない意見交換を行って内外にシルクおよびシルクを含む天然繊維の商品をＰＲする必要があると考えています。

つきましては、１１月１９日（金）に貴産地にお伺いし、洋装用の製織、整理染色を含む後加工また縫製等の工場見学と主だった方々との意見交換を下記のとおりの予定で考えていますので、便宜供与方よろしくお願い申し上げます。

敬　具

記

一、日時：２０１０年１１月１９日（金）１３：００～１６：００
（広幅製織、後加工、縫製工場見学）
１６：００～１７：３０
（会員の方との意見交換）

二、概要：

【絹委員会側】
①欧米の繊維製品の市場動向について
②海外の原料事情について

【組合連合会側】
①シルク製品の内外への需要掘り起こしについて
②国内産地と貿易業との協働について

以　上

九、米沢繊維協同組合連合会との意見交換の出席者：

日本繊維輸入組合組合

| | 氏　名 | 会 社 名 | 役 職 名 | 住　　所 |
|---|---|---|---|---|
| 委 員 長 | 新美　一夫 | (株) GSIクレオス | テキスタイル第三部部長 | 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル6F) |
| 副委員長 | 鈴木　　誠 | 西田通商(株) | 第三事業部　次長 | 横浜市中区本町1-5 |
| 委　員 | 渡邉　　大 | 同興商事(株) | 代表取締役　社長 | 京都市中京区烏丸通六角上る饅頭屋町617番地　六角ビル |
| 〃 | 潘　林　龍 | 中　　和(株) | 代表取締役　社長 | 大阪市中央区備後町1-6-6 ナシモトビル201 |
| 〃 | 神保　敬一 | 事 務 局 | 業務部　部長 | 東京都中央区日本橋本町１－７－１４ 日本繊維輸入組合内 |
| 〃 | 槇山　孝夫 | 〃 | 業務部　次長 | 〃 |
| 陪　　席 | 永山　泰規 | 経済産業省 製造産業局 繊維課 | 毛・絹・ファッション担当 | 東京都千代田区霞ヶ関１－３－１ |
| 〃 | 芝村　　修 | 日本絹人繊織物工業組合連合会 | 業務部　部長 | 東京都千代田区九段北１－１５－１２ |

米沢繊維協同組合連合会

| 役　職 | 氏　名 | 事業所名 | 住　　所（米沢市） | 役職名 | TEL（０２３８） |
|---|---|---|---|---|---|
| 広巾部部長 | 寺島規人 | 青文テキスタイル㈱ | 東2-7-163 | 常務取締役 | 23-8334 |
| 広巾部副部長 | 佐藤彰芳 | 佐隆繊維㈱ | 城南2-3-93 | 代表取締役 | 22-3322 |
| | 鈴木栄一 | 鈴吉織物㈲ | 春日1-3-30 | 代表取締役 | 23-0890 |
| | 高橋　治 | 高良織物㈲ | 城西1-3-4 | 代表取締役 | 23-1116 |
| | 嵐田秀雄 | 嵐田絹織㈱ | 城西4-2-22 | 常務取締役 | 23-0824 |
| | 安部吉弘 | ㈱安部吉 | 中央2-5-17 | 代表取締役 | 23-4674 |
| | 木原　勝 | ㈱キハラ | 門東1-2-80 | 代表取締役 | 22-0011 |
| | 山本直樹 | ㈱パルコモード | 城西4-4-21 | 常務取締役 | 23-8201 |
| | 佐藤伸二 | 米沢繊維協同組合連合会 | 門東町１-1-5 | 事務長 | 23-3525 |